

インフラメンテナンスをどう進めるか

◆インフラメンテナンス大賞の表彰で、優れた事例の水平展開を図る

2017年4月、国土交通省や総務省、厚生労働省などが共同で、第1回「インフラメンテナンス大賞」の受賞者を決定した。老朽化が懸念されるインフラのメンテナンスにおいて、優れた取り組みや技術開発を表彰、紹介するもので、交通量が多い交差点など開削工事ができない既設の水道管の内側にステンレス・フレキ管を挿入する工法（SDF工法）の開発など28件が選ばれた。

一方、内閣府SIPのインフラ維持管理・更新・マネジメント技術の17年度研究開発計画が3月に承認された。インフラの点検・診断技術や補修・補強技術のほか、インフラにセンサを設置しデータを取得する情報通信技術、人が近づけない場合等にロボットで対応する技術の研究開発が進められる。

◆インフラを管理する地方公共団体と技術を持つ企業をマッチング

高度成長期に建設されたインフラが今後、高齢化する。たとえば、道路橋（橋長2m以上）やトンネルで建設後50年以上経過したものの割合は、13年時点では20%程度だったが、23年に30～40%台、33年に50～60%台へと上昇する。インフラの維持管理・更新費用は13年の約3.6兆円が23年に約4.3～5.1兆円、33年に約4.6～5.5兆円に増えていくと推計されている。

インフラメンテナンスのコスト低減には、状態の的確な把握、劣化予測・余寿命予測、優先順位を付けた維持管理・更新が必要である。16年11月に設立されたインフラメンテナンス国民会議では、インフラを管理する地方公共団体と技術を持つ企業が交流し、3月までに4技術5団体のマッチングが成立している。

画像処理による舗装ひび割れ自動解析	東芝	浜松市
隣接市との橋梁点検診断の技術研修	大日コンサルタント	中津川市
下水道本管内部からの取付け管調査	カンツール	豊橋市、岡崎市
幹の腐朽診断、根系の分布把握	応用地質	桑名市

国や地方公共団体が16年度までに策定したインフラ長寿命化計画に基づき、個別施設ごとの長寿命化計画が今後、18年度までに策定される。各地の個別計画策定が進むにつれ、インフラメンテナンス市場が広がっていく。 【長谷川雅史】